

# NT

NISSEKI TOKYO

2017  
Winter  
Vol.12

## 輸血と献血

いのちをつなぐものとは





## Contents

- 04 救護訓練報告  
新宿・歌舞伎町で初の災害救護訓練
- 06 れっどくろす News&Topics
- 08 特集  
輸血と献血  
いのちをつなぐものとは
- 20 赤十字Supporters
- 21 Hospital Referral  
武蔵野赤十字病院／大森赤十字病院／葛飾赤十字産院
- 24 福祉施設 NEWS  
武蔵野赤十字保育園／赤十字子供の家
- 25 国際 NEWS
- 26 行け10!レポーター オカモト★ 日赤とつげきレポ —vol.6 献血バス編—
- 29 活動資金協力者(社)・団体のご紹介
- 30 Rediscovery TOKYO —第5回 台東区・浅草—

NT  
NISSEKI TOKYO

Vol.12 2017年1月発行

■発行・編集・デザイン／日本赤十字社東京都支部

〒169-8540 新宿区大久保1-2-15

Tel:03-5273-6747 (総務部企画課直通)

※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転写(コピー)、複製(転載)を禁じます。

※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みます。その後の内容に変更が生じる場合もありますので予めご了承ください。

ホームページ: <http://www.tokyo.jrc.or.jp/>Facebook: <https://www.facebook.com/redcrosstokyo/>

年4回発行(4月・7月・10月・1月)

日本赤十字社東京都支部にご寄付いただいた方に郵送でお届けしているほか、都内の赤十字病産院及び献血ルーム・献血バス等の献血会場でも配布しています。



## 新春のご挨拶

あけましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年10月、日本赤十字社東京都支部長に就任いたしました小池百合子でございます。

皆様には、平素より赤十字事業への格別のご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、4月に発災した熊本地震にはじまり、9月には東北を縦断した台風10号等豪雨災害、10月には鳥取県中部地震等、多くの自然災害が発生しました。

日本赤十字社は、いずれの災害におきましても、発災直後から被災者の救護活動や、こころのケア活動などに取り組んで参りました。このような活動ができるのも、皆様の日頃からのご支援によるものでございます。

国の報告にもありますとおり、マグニチュード7クラスの首都直下地震は、30年以内に70パーセントの確率で発生すると推定されております。

こうした大規模地震へ備えるため、東京都支部では、本年度までの3年間の中期重点事業

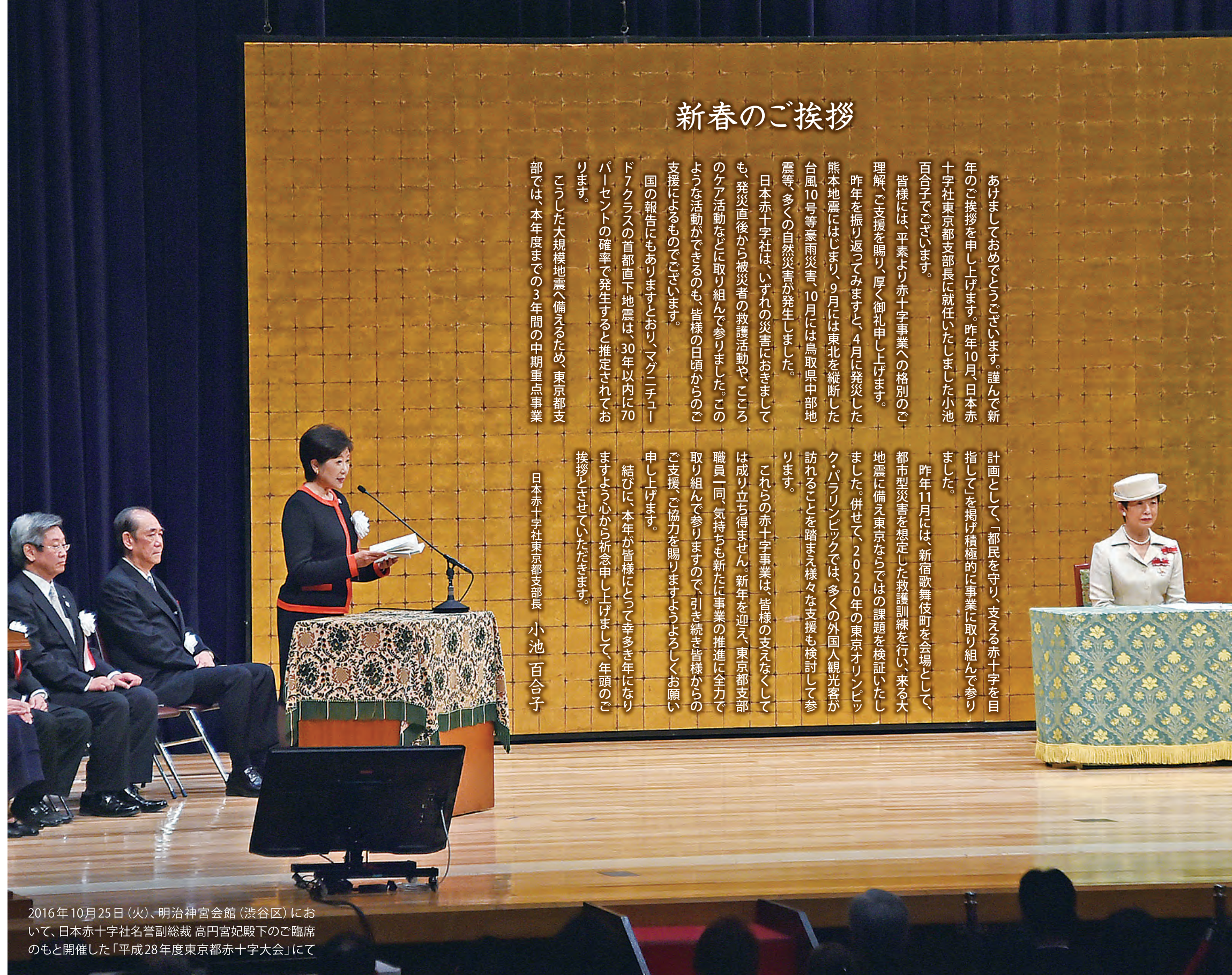
計画として、「都民を守り、支える赤十字を目指して」を掲げ積極的に事業に取り組んで参りました。

昨年11月には、新宿歌舞伎町を会場として、都市型災害を想定した救護訓練を行い、来る大地震に備え東京ならではの課題を検証いたしました。併せて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、多くの外国人観光客が訪れることを踏まえ様々な支援も検討して参ります。

これらの赤十字事業は、皆様の支えなくしては成り立ち得ません。新年を迎え、東京都支部職員一同、気持ちも新たに事業の推進に全力で取り組んで参りますので、引き続き皆様からのご支援、ご協力を賜りますようしくお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多き年になりますよう心から祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

日本赤十字社東京都支部長 小池 百合子



2016年10月25日(火)、明治神宮会館(渋谷区)において、日本赤十字社名誉副総裁 高円宮妃殿下のご臨席のもと開催した「平成28年度東京都赤十字大会」にて



## Topic 1 迫真のメイクと演技



訓練前に傷病メイクを受ける日赤看護大学の学生

災害救護訓練に欠かせないのが傷病者役。この日は日赤看護大学の学生や青年学生赤十字奉仕団、日赤災害救護ボランティアなどが参加してくれました。リアルな傷病メイクを施し、日赤看護大学の教員による演技指導も。「傷病者役の演技によって訓練の臨場感が左右されるんですよ」(日赤看護大・井上忠男教授)

## 赤十字奉仕団もボランティア参加 Topic 2

訓練は大勢のボランティアに支えられています。この日の炊き出しは、地元の新宿区赤十字奉仕団が担当。温かいうどんを提供し、他県から駆けつけた救護員たちからも「温かい」「おいしい」と好評でした。新宿区赤十字奉仕団は、東日本大震災の際には募金活動で力を発揮。ふだんは地域で健康教室を開催するなどの取り組みを行っています。



奉仕団手作りのうどんは参加者に大好評

## Topic 3 救急救命士をめざしてます！



訓練会場で到着報告をする国士館大学の学生たち

日赤東京都支部とパートナーシップ協定を結ぶ国士館大学で救急救命士をめざして勉強中の学生たちも、傷病者の搬送役として参加しました。「救急法や担架での搬送は勉強済みです！」。医師や看護師も加わった本格的な救護訓練への参加は初めてとのこと、「医師の診察の様子などを見ることができて、とても勉強になりました」(3年生・嶋田圭祐くん)

るとの想定で、ボランティアを含め約400人が訓練に取り組みました。首都直下地震のように甚大な被害が予想される災害では、都内だけの医療チームだけでは対応できないため、他県から派遣された救護班等による支援を受け入れるという「受援」体制についても検証しました。

各地で地震が相次ぎ、首都直下地震も予想される中、日本赤十字社東京都支部は日本赤十字社および第2ブロック支部（関東甲越の9都県支部）と合同で昨年11月3日、新宿・歌舞伎町において災害救護訓練を実施しました。多数の人が行き交う繁華街での災害救護訓練は初の試み。東京湾北部を震源とするM7.3の地震が発生し、23区内では震度7を観測、建物の倒壊などにより多くの負傷者が発生している

首都直下地震に備える！  
新宿・歌舞伎町で初の災害救護訓練

11月3日朝5時にM7.3の巨大地震が発生。ビルが倒壊などによって大きな被害が発生している新宿区で、大久保公園と歌舞伎町シネシティ広場に拠点となる救護所を展開し、負傷者に対応するという想定で訓練が実施されました。



訓練の情報集約に特化したシミュレーションも。傷病者を手当するだけでなく、その情報をまとめて適切な救護につなげることが、現場においてはとても重要です



傷病者を搬送する救護ボランティアへ今回の訓練に参加したボランティアは約170人！災害時の防災ボランティアによる活動も検証しました



今回の災害救護訓練の主なテーマは、①大繁華街である歌舞伎町における災害救護訓練、②受援（他県からの支援を受け入れること）の訓練、③日赤災害医療コーディネーターの調整のもと、医師会や地域の病院など関係機関との連携した活動——の3点でした。熊本地震災害で得た教訓や今回の訓練で新たに得られた問題点などを踏まえて、すでに策定されている「日本赤十字社首都直下地震対応計画」や東京都の「災害時医療救護活動ガイドライン」などを検証し、より良いものとしていくことが最も重要です。



## 小池百合子新支部長が式辞 東京都赤十字大会を開催

昨年10月25日、明治神宮会館（渋谷区）において、日本赤十字社名誉副総裁・高円宮妃殿下のご臨席のもと、平成28年度東京都赤十字大会が開催され、赤十字社員など約1,000人が参加しました。

赤十字大会は、東京都内で高額の寄付をいただいた社員（会員）や、ボランティア活動などで功績のあった方々を表彰するもの。本年度は受章者の代表として29人の方々が登壇し、高円宮妃殿下や大塚義治副社長、小池百合子支部長（東京都知事）から表彰状を授



座ってできるエコノミークラス症候群の予防運動を伝える大森赤十字病院の協浩美看護師

与されました。

授与式の後には、昨年4月に発生した熊本地震災害の時に自らも救護員として現地に赴いた葛飾赤十字産院の三石知左子院長か



ら、現地の救護活動について報告がありました。また、赤十字事業の体験として、座ったままできるエコノミークラス症候群の予防運動を実施しました。

## 伊豆大島と利島 合同総合防災訓練に参加

離島における大規模災害の発生に備えようと、伊豆大島と利島で昨年11月21日、合同防災訓練が行われ、日本赤十字社東京都支部も参加しました。

訓練の目的は、被害を最小限とするための自助・共助体制の確立と、伊豆大島の三原山が前回の噴火から30年の節目を迎えることから、より実践的な訓練を島民および島内の防災関係機関が合同で行い、それぞれの応急対応能力の向上を図ることです。

三原山の噴火と、噴火により大島を震源とする震度5強の火山性地震が発生したとの想定で、海上保安庁や自衛隊とも連携して島外避難訓練を実施しました。伊豆大島では島内3か所、利島も1か所を拠点として炊き出しや物資輸送訓練が行われました。

東京都支部は、武蔵野赤十字病院の救護班による医療救護訓練のほか、防災ボラン

ティアを中心とした炊き出し訓練、被災地活動のパネル展示、応急復旧訓練として三角巾の使い方指導などを実施。小学生や高校生の参加もあり、広く島民と協力しながらの訓練となりました。



島外避難訓練のため、岡田港から船に乗り込んだ参加者



つばき小学校での医療救護訓練



奉仕団などによる炊き出しの様子

## 東日本大震災から6年 「私たちは、忘れない。」プロジェクト

東日本大震災から6年。日本赤十字社では、「忘れない」ことから未来へつなげようと「私たちは、忘れない。」プロジェクトを全国で実施します。このプロジェクトは震災から5年目を契機に、昨年から取り組んでいるものです。実施期間は3月1日～31日。期間中は、職員や赤十字ボランティアなどがバッジを着けてプロジェクトをアピールするとともに、WEBでもキャンペーンを紹介。賛同いただいた企業にロゴマークをつけていただき、プロジェクトをアピールしてもらうことも予定しています。期間中はぜひ、街中や献血会場、赤十字病産院で、このマークを探してみてください。



「私たちは、忘れない。」プロジェクトロゴマーク

## ボランティア全国フォーラムに 青年学生赤十字奉仕団員が登壇

昨年11月5、6日の2日間、国立オリンピックセンター（代々木）で、「ボランティア全国フォーラム2016」が開かれました。NPO法人やボランティアが全国から集まる国内最大級のフォーラムです。

第5分科会「Youth Empowerment—ユースのパワーを社会に—」には、東京都青年学生赤十字奉仕団員3人が登壇。社会福祉施設での活動について発表しました。参加した奉仕団員は、「ボランティアで活動していたり興味を持つ方々に、仲間のような感覚で話げできた」と感想を語りました。



大勢の参加者の前での活動発表は貴重な経験に

## FC町田ゼルビアが 東京都支部とコラボイベント

昨年10月30日の明治安田生命J2リーグ第38節FC町田ゼルビア対カマタマーレ讃岐戦に、赤十字のPRブースが出展されました。首都直下地震への備えを紹介するとともに、避難所生活で役立つ毛布ガウン体験を実施。観戦にきた多くのサポーターでにぎわいました。

チームマスコットのゼルビー君も、避難所の生活スペースを体験。また、選手たちもゼルビー君とともに活動資金への協力を呼びかけてくれました。



ゼルビー君（中央）とハートラちゃん（左）も登場

## 安田菜津紀さんをゲストに 「NT」読者イベント初開催

日本赤十字社東京都支部は昨年12月3日、広報誌「NT」の読者イベントとして初の試みとなる「NTファンミーティング」を、イトーキ東京イノベーションセンター（京橋）で開きました。「国際情勢に気づき、考えるきっかけを」をテーマに、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんをゲストに迎え、内戦が続くシリア問題をはじめとした国際問題について語り合いました。イベントには広報誌「NT」の読者など47人が参加しました。

イベント冒頭、ショートフィルムを上映。ア



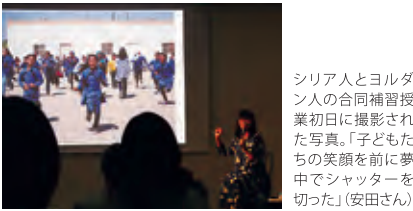
参加者からの質問や感想もたくさんいただきました

フガニスタンからの難民兄弟を描いた『新しい天使』（オランダ、2015年）と、クルド人父子の胸打つストーリー『パパ』（ノルウェー、2005年）の鑑賞後、安田さんから、これまで取材してきた中東シリア・イラクなど難民の子どもたちのエピソードが紹介されました。

会場からは「難民として分断されて苦しんでいる人たちに、私たちは何ができるのか」「戦場などのひどい話を知ったとき、メンタルを健全に保つには？」などの質問が出されました。安田さんは「難民の人たちは、自分たちが忘れられ、見捨てられることに傷ついている。少しずつでも支援を継続していくことが大切」「もっともつらい思いをしているのは、現地の難民や支援者たち。彼らがあきらめない限り、私たちもあきらめてはいけません。『悲しい』と感じたときは、友人や家族に受け止めてもらいましょう」などと答えました。



「難民の人たちは世界から無視され、忘れ去られることに傷ついている」とフォトジャーナリスト安田菜津紀さんは語りました



シリア人とヨルダン人の合同補習授業初日に撮影された写真。「子どもたちの笑顔を前に夢中でシャッターを切った」（安田さん）



## 特集

# 輸血と献血

## いのちをつなぐものとは

「輸血」が必要な人がいるから、「献血」が必要——。考えてみれば当たり前のことなのですが、それを実感できる場面は、多くないかもしれません。

献血ルームや献血バスで皆様からご協力いただいた献血は、血液センターで輸血製剤に製造したあと、赤十字の病院だけでなく、全国の病院で病气やけがと闘っている患者さんに届けられ、日々「いのち」をつないでいます。

今号の特集では、「輸血」と「献血」、その先にある「いのち」について、さまざまなシーンから、あらためて考えていきたいと思います。



写真：献血ルーム吉祥寺タキオンのあるサンロード商店街での呼びかけ



## ◆ どんなときに輸血が必要になるの？

- こんなときに必要になります。
- ・血液の成分をつくることができないとき
  - ・大量に出血したとき
  - ・血液の成分が大量に消費されるとき
  - ・血液の成分が壊れるとき
  - ・血液の成分が十分にはたらかないとき
  - ・薬の効果を緊急に中和する必要があるとき
  - ・体内の有害物質を除去するとき



## ◆ 輸血しないと、どうなるの？

**赤** 血球が足りないと細胞が酸素不足になり、息切れや動悸、だるさ、めまいなどの貧血症状が起きます。血小板や凝固因子が足りないと出血しやすくなり、ぶつけていないのにあざができたり、血が止まらなくなってしまうです。



# 「輸血」について知っていますか？

献血はなぜ必要なのでしょう？  
「輸血を必要とする患者さんに血液を届けるため」  
「血液は人工的につくれないから」  
どちらも正解です。  
でも、「輸血」のことって、意外と知られていませんね。  
あなたや家族が、いつ必要になるかわからない「輸血」のこと。  
この機会におさらいしてみませんか？



## ◆ 輸血を受ける人はどれくらい？

1 年間に輸血を受ける患者さんは推計で約95万人（平成26年：日本輸血・細胞治療学会）。一方、1年間に必要な献血者数は約500万人。1人分の献血で1人の患者さんを支えているのではなく、5人分の献血で1人の患者さんを支える必要があるという計算になります。輸血を受けるケースで最も多いのが、がんなどの病気。全体の85.4%を占めており、何回も繰り返し輸血を受ける患者さんも多くいます（平成26年：東京都輸血状況調査）。



## ◆ 輸血までの流れは？

**輸** 血を受ける患者さんやご家族に、医療スタッフが輸血の必要性やリスクを説明し、輸血に同意していただきます（インフォームド・コンセント）。患者さんに適合した血液製剤を輸血するため、血液型などの検査や照合を行ってから、点滴で輸血が行われます。医療スタッフは、輸血用血液製剤に異常がないか、輸血パックの外観などを確認するほか、血液製剤が確かにその患者さん用のものであるか、よく確認して事故のないよう万全を期しています。輸血後は、効果と副作用について確認します。



## ◆ 「輸血」は、まさに命綱！

**血** 液は、赤血球や血小板、白血球などの細胞成分と、それ以外の液状成分でできています。赤血球は肺で取り込まれた酸素を全身の細胞に運ぶ役割があり、血小板は出血時に血管の傷をふさぐために働きます。液状成分の血漿には、止血のための凝固因子などが含まれます。これらの成分を自分自身で十分につくることができなくなったり、事故や手術で大量出血したときに、必要な成分を必要な量だけ補充するのが輸血です。輸血せずに放置しておくと、最悪の場合、死に至ります。

4



高校2年生のとき白血病で輸血を受けた藤原正人さん

病院の患者さんへ

3

血液センターから病院へ



血液供給車両

※関連記事を P23 の葛飾赤十字産院に掲載

2

検査・製造



関東甲信越ブロック血液センター

1

献血ルームやバスから血液センターへ



関東甲信越ブロック血液センター

献血した血液が患者さんに届くまで



「初めて輸血を受けたときはショックでした」

私と子どもがここにいるのは  
献血のおかげです

加藤 はじめまして。本日は、輸血の経験者として自分の体験とお話をしたいと思います。私は25歳のときに白血病を発症し、29歳で再発しましたが、輸血に支えられて生き延びました。現在は3人の子どもを持つ父親でもあります。私と子どもたちが今ここにいるのは、献血と輸血のおかげ。本当に感謝しています。

—— 加藤さんは病気になる前、献血したことがありますか？

加藤 高校生の頃から体格もよく、積極的に献血していました。まだ献血ルームに行ったりしましたよ。白血病を発症したのは、大学を卒業して3年後。白血病は助からない病気というイメージを持っていたので、死を覚悟しました。

—— 輸血を受けたときは、どんな気持ちでしたか？

加藤 初めて輸血を受けたときは、正直言って…ショックでした。それまでは健康優良児で、病気らしい病気がしたことがなかったんです。「血液は自分の身体でつくるもの」と思っていました。それが、他人の血に支えてもらえないと生きていけなくなっていました。自分の身体を「欠陥品」のように感じました。でも、両親も健在で自分が先に逝くわけにはいかない…。いろいろな葛藤がありましたね。

—— 日本では将来、血液不足が心配されています。どう思いますか？

加藤 献血者は減少しているのに、高齢社会を迎え、血液を使う人が今後ますます増えていくと言われていますよね。それを解決する方法として、献血者を増やすことももちろん大切ですが、他の解決方法もあるのではないかと思います。

例えば、集める部分の変革。日本では売血※の歴史から、無償の献血で血液をまかなうことにしました。しかし、今後、本当に血液が足りなくなる局面が来たとき、他の方法も考えなければいけないのではないかな。もちろん、無償の献血でまかなわれるべきという考え方がベースですが、もっと根本的な解決方法が問



国立オリンピックセンターで加藤さんを囲んだ座談会

# 「生きる」 ことについて考えた。

— 学生×輸血経験者の本音座談会 —

輸血を受けたことのある人の思いを聞いてみたい——。普段から献血推進に取り組む学生たちのそんな素朴な思いから、輸血経験者と学生の座談会が開かれました。学生たちの思いに応えてくれたのは、2度の白血病を克服した加藤恭央さん(39歳)。話は献血だけでなく「いのち」や「死」についても及んで…。ふだんは交わることのない献血推進者と輸血経験者の座談会が始まります。

聞き手・東京都学生献血推進連盟の学生たち  
構成・NT 編集部



輸血経験者  
加藤 恭央さん  
*Yasuhisa Katoh*

1977年生まれ。2003年に急性骨髄性白血病を発症。輸血を受けながら6か月間の入院生活を送る。2007年に再発し、10か月間の闘病生活を送る。現在は3児の父。昨年の第52回献血運動推進全国大会では自身の経験を発表した。



現在は3児の父。「私の子どもは、献血者の皆さんの子どもでもあると思っています」



長期の闘病生活を支えてくれたのは、家族の存在でした





われるときが来るのではと思います。

## 血液の使われ方はどうだろう？

加藤 また、輸血用の血液は皆さんの善意によって集められた貴重な血液。僕のような患者の命をつなぐためにはなくてはならないものです。でも、私は足かけ2年の闘病生活を送り、入院期間も長かったので、病院でいろいろな人を見てきました。私のように血液を使わせていただく患者や、患者に向き合う看護師や医師など。その中で、もはややとした気持ちを感じることがあったのも事実です。

## ——どんなことを感じたのですか？

加藤 今の医療は、1秒でも長く生きながらえることがベースにありますよね。あるとき、私の部屋に来た看護師さんが涙ぐんでいたことがあって、話を聞いたら、別室の患者さんのことで悩んでいたんです。その患者さんは、もう助かる見込みがなく、本人もそのことを理解していて、本音では「もう楽になりたい」と思っていたそうです。でも、お見舞いに来る家

## 「死を覚悟。生き方に悩んだこともあった」

族は、苦しんでいるときの様子を知らないので、「1日でも長く生きてほしい」と願う。看護師さんは、患者さんの苦しみを知っているので、涙ぐんでいたわけです。

## ——医療のあり方について疑問に思うところも？

加藤 「医療」や「死」が、今の日本ではあまりにも生活と分離・隔離させられているような気がしています。「死」「病」「ケガ」などについて、もう少し自分や家族のこととして捉えることができれば、そこにつながる「献血」も、もっと身近に感じられるようになるんじゃないかな。今の日本社会でタブー視されていることを伝えていくのは難しいですが、生死をさまよう体験をした者として、自分の感じたことを正直にみんなに発信することも重要と考えて、正直に話をしました。

## ——生きることとはどういうことなんだろう…と考えさせられます。加藤さんは安楽死を肯定されますか？

加藤 安楽死や、患者本人の意志に沿って、積極的な治療をやめるという「尊厳死」について、私は肯定的です。抗がん剤による吐き気など、治療

だろう」と悩みました。

今でも再発の不安がないわけではありません。残された人生で何ができるのか、今もわからないのが正直なところ。ただ、目の前にあることをしっかりやるしかない。それだけは、自分の中ではつきりしています。今の私であれば、仕事と子育て。そして、今日のように少しでも自分の体験を伝えていきたいですね。

## 誰もが、いつ何時必要になるかわからない

## ——最後に、献血についての思いを聞かせてください。

加藤 私は、病気になる前に献血した量よりも、輸血してもらった量の方がはるかに多いんです。血液をいただいたことには、感謝の気持ちしかありません。そしてなにより、皆さんにいただいた血液が自分の体に流れていて、それが輸血後に授かった3人の子どもたちにも受け継がれている。学生の皆さんが行っている献血推進運動は、もちろん素晴らしいことです。今、健康な人たちも、いつ何時、私のように輸血がなければ生きていけなくなるかわかりません。献血と輸血によって助かった人間として、そうしたことも伝えたいです。

## 献血がなければ、今の自分はいなかった。

健康優良児だった加藤さんが白血病を発症したのは25歳のとき。赤血球や血小板の輸血を受けながら入院生活を送り、一度は回復し、結婚して子どもを授かるも、29歳で再発。「1歳の長女と、3日前に生まれたばかりの長男、出産を終えたばかりの妻を残しての入院は10か月に及びました。

2度の闘病生活を生き抜いた今、「献血がなかったら、1度目の入院で命を落としていたと

思う。献血・輸血のおかげで、命をつなぐことができた」と語ります。「献血がなければ、子どもたちが生まれてくることもなかった」とも。

白血病を発症するまでは、献血にも積極的だった加藤さん。「献血は生命のかけらを他人に分け与えることだと感じている」と言います。輸血の経験があるため、もう献血はできないものの、自身の体験を発信していくことなどを通じて、これからも社会貢献をしていきたいと考えているそうです。



加藤さんに真剣に問いつける学生たち







東京都学生献血推進連盟に参加したのは、通っている大学のボランティアサークルを通して。共通の思いがある友達ができるのがいいですね。初めて献血したのは大学2年のとき。「怖い」と思ってたかなかですにいたけれど、1回やってみると献血ルームに行くのが楽しみになった。まだやったことのない人には「考えるよりもまずやってみる」と言いたい！(笑)。

僕は大学で食品について勉強して、就職先も飲食関係。献血できる身体をつくるためのレシピを考案して、学祭で発表したこともありますよ。自分の得意分野を生かしてできることもたくさんある、と実感できた体験でした。

やらない理由がない！

それは献血も広報も同じ

小菅 七海 東京聖栄大学4年生

## 僕らが献血を推進する理由



姉が同じ大学で、赤十字のボランティアサークルをやっていたので誘われて参加しました。ゴールデンウィークの献血キャンペーンに参加したら、先輩たちが広報を頑張っていて「すごい！」と思いました。マイクを持って呼びかけている姿がカッコよかった。

サークルに入ってから、血液が人工的に作れないことや、16歳から献血できること※などを初めて知りました。東京では1日約1500人分の血液が必要で、若い人の献

※全血献血は、200ml献血は16歳から、400ml献血は男性17歳・女性18歳から可能。

救える「いのち」を救うために。

原 優里奈 東京家政大学2年生



1 池袋東口駅前では仮装して献血呼びかけをする学生たち(2016年10月) 2 看板を持ちながら一生懸命呼びかける姿に、足を止める人も多くいました 3 興味を持ってくれた男の子に献血の説明。「大きくなったら献血してね！」 4 同年代の高校生も、何をやっているのか興味津々 5 献血された血液の使い方や有効期限などを手製の看板で伝えています

# 同世代の献血者を増やしたい！

未来を担う学生献血推進連盟のメンバーたち

日本が高齢社会を迎える中、10代〜20代の献血協力者の減少が深刻な問題になっています。その中でも同年代の立場から積極的に献血を呼びかけ、献血協力者を増やすことを目的に活動しているのが「東京都学生献血推進連盟」。都内の大学に通う学生たちで組織され、都内各地で献血を呼びかける活動などを行っています。

## どうしたら「献血」に興味を持ってもらえるか。悩みながらもいろんな活動に挑戦しています。

ふだんは献血バスの周辺や大学内での献血などで献血協力への呼びかけをしたり、広報用の看板などを作成しているメンバーたち。昨年10月には自主的に合宿の勉強会を開催。近隣の学生も参加し、お互いの活動についての情報交換や、献血についての知識を学び、献血と「いのち」について考えを深めました。

29日には東京では初となる「ハロウィン献血キャンペーン」を実施し、池袋東口の駅前で、仮装した学生たちが献血を呼びかけました。これも献血に興味を持ってもらうための学生のアイデア。こうした活動に取り組んだ思いについて、東京都学生献血推進連盟の桃井貴章会長は、「宿泊場所の手配なども含めて、すべて自分たちで行いました。メンバーの交流を深めるとともに、献血について本音で語り合える機会になれば、と思っています」と話してくれました。

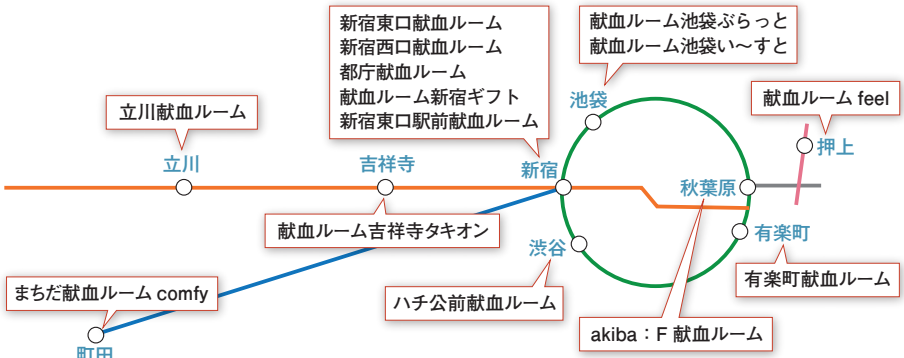
(桃井さんのインタビューは「ONE STEP」に掲載)





# 都内の献血ルーム紹介

都内にある献血ルームは 14 か所。1 年間にご協力いただいている献血会場の約 60%以上は献血ルームです。このほか、献血バスや、企業などに訪問しての献血も各所で行っています。輸血へとつながる最初の場所で、皆様のご協力をお待ちしております。お近くにお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



- 1,2 献血ルーム吉祥寺タキオン
- 3 有楽町献血ルーム
- 4 akiba : F 献血ルーム
- 5 新宿東口駅前献血ルーム

都内献血会場については  
こちら↓  
<https://www.tokyo.bc.jrc.or.jp/rooms/>





## 赤十字 Supporters

### 文化祭で毎年、献血バスに来てもらっています。 安田学園高等学校（墨田区）

**毎**

年、秋に開催している文化祭の際、献血バスに来ていただき、生徒や来場される親御さんなどに献血を呼びかけています。いつも、40〜50人ほどのご協力をいただいていて、もう30年ほど続けています。

この取り組みを始めた当初、本校は男子校でした。男子生徒たちが大きな声で呼びかけられるか心配していましたが、すぐに慣れて献血を元気に呼びかけてくれるようになりました。高校時代の体験が、将来につながってくればと願っています。献血は継続的な協力が何より大切ですからね。

今は、自己肯定感が低い生徒も多くいます。自分の血液で誰かのいのちが助かることを知ってもらい、「人の役に立てた」という達成感を味わってほしい。血液は、人工的につくれない尊いもの。献血できる健康な身体であることの幸せや、いのちがつながっていくことの大切さを、生徒たちに実感してもらえればと思っています。



生徒指導部長 阿部政彦先生（右）  
と養護教諭 安田ゆり子先生



ご自宅で戦時中のお話を熱心に  
語ってくれた川端庄造さん

**戦**

時中は、中央区築地にあった海軍軍医学校で教官として勤務し、そこで当時の看護婦の仕事を目の当たりにしました。

ある時、銀座に爆弾が落ちて、負傷者が次々と運ばれてきて大変なことになりました。そんな中、18〜19歳の日赤看護婦たちが、ものすごいスピードで重症度に従って患者を振り分けていき、血などものともせずに手当をしていくんです。心から感服しました。日赤の看護婦たちは戦地を体験しているのでもっとも頼もしかった。

戦後、会社経営に成功して社会貢献を考えたとき、この記憶があれば日赤に寄付しようとは思わなかったかもしれません。寄付金を日赤本社に持参し、山本正淑社長（当時）にお渡ししたことを覚えていています。

東日本大震災などでも、被災地で迅速な救護活動ができるのは、やはり日赤ですね。これからも力を発揮していつてくください。

文責：N.T編集部

### 戦時中の日赤看護婦の姿に 心打たれて 川端庄造さん（港区・94歳）



## 武蔵野赤十字病院

- 所在地 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町 1-26-1
- 連絡先 Tel 0422-32-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、5月1日(赤十字創立記念日)、年末年始
- 病床数 611床(一般528床、ICU 8床、HCU 22床、CCU 6床、SCU 9床、NICU 6床、GCU 12床、感染症20床)

健診副部長  
第一消化器科副部長  
**高橋 有香**  
Yuka Takahashi



# 突然の高熱にご注意を！

インフルエンザは予防が重要

今年もインフルエンザの季節がやってきました。毎年11～4月に流行し、いったん流行が始まると短期間のうちに多くの人に感染が広がります。

風邪やインフルエンザは、感染した人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫とともに放出されたウイルスを、鼻腔や喉、気管に吸い込むことによって感染します。

インフルエンザは、普通の風邪と違い、のどの痛み・鼻汁・咳のほか、突然の高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛などの症状が出ます。

**日常生活でできる予防法**

インフルエンザにかからないためには、何より予防が大切です。日常生活の中でできる予防法としては、人混みを避ける、外出後の手洗い・うがい、マスクをする、適度な湿度(50～60%)の保持、十分な休養と栄養摂取——などがあります。

予防接種(ワクチン)も有効です。ただし、接種してから効果が出るまでに約2週間かかります。高齢者や、心臓や腎臓・呼吸器などの疾患のある方、免疫力の落ちている方、小さい子どもは、あらかじめ予防接種を受けておくことをおすすめします。

**水分と十分な休養を**

インフルエンザに感染してから症状が出るまでの潜伏期は1～2日。症状が出てから3～7日は感染力があると言われています。学校保健法では、「発症した後5日経過し、解熱した後2日(幼児については3日)を経過するまで」は登校を控えるようにと定めています。

インフルエンザにかかったら、まず水分と休養をとりましょう。熱が出たら、できるだけ早く病院を受診することも大切です。

症状が出て48時間以内であれば、抗ウイルス薬が有効です。一般の風邪薬は、発熱や鼻汁、鼻づまりなどの症状をやわらげることはできますが、インフルエンザウイルスに直接効果があるわけではありません。また、15歳以下の子どもには、副作用の危険があるためアスピリンなどのサリチル酸系解熱鎮痛薬は投与しません。市販の解熱剤を内服する際は、必ず医師に相談しましょう。

### 〈正しいマスクの着用〉



イラスト：政府公報オンラインより



## 大森赤十字病院

- 所在地 〒143-8527 東京都大田区中央4-30-1
- 連絡先 Tel 03-3775-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始(急患は随時)
- 病床数 344床(一般326床、ICU・CCU 6床、HCU 12床)

日本人の死亡原因の上位を占めるがん。早期に症状が出づらく、発見が遅れるがんも多くありますが、定期的な検査で早期に発見できれば、治療も可能な時代になっています。

# がんは早期発見・早期治療が肝心！

定期健診のススメ

現在、日本人の年間30万人以上

が、がんで命を落とすと言われています。死亡数で見ると、胃がんはすべてのがんのうち男性で2位、女性で3位。大腸がんは男性で3位、女性では1位です。これら消化器系のがんは初期に症状が出づらく、日常生活では気づかないことも多いため、症状が出る頃にはがんが進み、治療が難しくなります。逆に、内視鏡検査で早期に発見できれば治療することがほとんどです。

## 内視鏡で検査と治療を

内視鏡は、先端に小型カメラ(CD)またはレンズを内蔵した太さ1cm程の細長い管で、それを口や肛門から挿入して、食道や胃などの内部を検査します。内視鏡を使って治療を行うことも。

「内視鏡検査はつらい」と抵抗のある方も多いかもしれませんが、当院では内視鏡に精通したスタッフが検査にあたり、希望する方には鎮静薬や鎮痛薬も使うなど、できるだけ苦痛のない検査に

するよう心がけています。

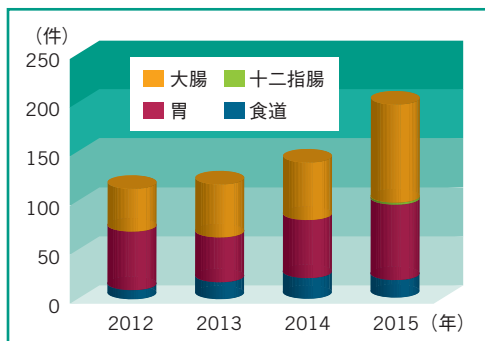
定期検査でがんが早期発見できれば、お腹を切る手術をしなくても、内視鏡で治療ができます。内視鏡治療は日々進化しており、以前は他への転移のリスクがなく、かつサイズの小さい腫瘍(がん)が治療対象でしたが、現在はESD(内視鏡的粘膜下層はく離術)という画期的な治療方法が開発され、サイズの大きいがんも治療できるようになりました。

当院は、このESD治療を得意としており、近隣の病院から紹介されて来院する方も増えていきます。治療成果は世界に向けても広く発信しています。

## 症状がなくても定期健診を

大切なことは、症状が出た時に受診するのではなく、定期的に内視鏡検査で自分の体をマネージメント(管理)することです。

「検査を受けるのが怖い」「どんな検査をするのか不安」など疑問や不安のある方は、お気軽に病院スタッフにご相談ください。



当院のESD件数の推移と内訳



内視鏡治療のようす



## 葛飾赤十字産院

- 所在地 〒124-0012 東京都葛飾区立石5-11-12
- 連絡先 Tel 03-3693-5211 (代表)
- 休診日 日曜、祝日、年末年始
- 病床数 113床 (産婦人科68床、NICU・GCU等45床)

葛飾赤十字産院は産科と小児科の専門病院です。都内屈指の分娩件数を誇り(平成27年度実績2077件)、地域周産期母子医療センターとして他院からの紹介患者も多く受け入れています。

# お母さんと赤ちゃんの「命の支え」

産院の輸血事情

サイレンの音を聞いて「救急車かな？」と思ったら違う車だった、という経験をしたことはありませんか？

それは血液運搬車だったかも知れません。血液運搬車は、献血ルームや献血バスなどでご協力いただいた血液を、検査・製剤化した後、血液センターから病院などへ届けています。当院も、東京都赤十字血液センターから昼夜問わず血液を届けてもらっています。運ばれてきた血液は、検査室で受け取ります。

**「24時間いつでも」の出産に血液も準備万端**

出産は、24時間いつになるかわかりません。当然、夜中に生まれる赤ちゃんも大勢います。

当院の産科での輸血は年間40〜50件程度、NICU(新生児集中治療室)では年間10〜20件ほど。とりわけ出産時は急に出血することが多いため、産科の輸血のほとんどは緊急で行われています。まさに、お母さんと赤ちゃんの「命の支え」です。

**輸血はもつとも頻繁に行われる臓器移植**

血液は臓器のひとつとして考えられ、輸血は「もつとも頻繁に行われる臓器移植である」と言われるほど、リスクが高いものです。医師が輸血の判断をすると、検査技師が速やかに検査を行い、患者さんに適切な輸血用血液製剤を選択、そして看護スタッフが輸血を実施します。

**安全・正確な輸血のために**

血液型は、A型・B型・O型・AB型の4種類の中でも、Rh型など、さらに細かく分類されます。そのため医療施設では、輸血前に輸血用血液製剤と患者さんの血液がきちんと適合しているか、血液型・不規則抗体スクリーニング・交差適合試験という3つの検査を行っています。

正確で安全な輸血を行うため、患者さんをケアしつつ、輸血前から輸血後までチーム一丸となって取り組んでいます。



血液センターから運ばれた血液製剤を受け取る検査課職員



自動輸血検査装置を使用して、輸血前の検査を行っています



# 紛争地域で活動する日本人がいることを 知ってほしい ～南スーダン紛争犠牲者医療救援活動～



月、約120件の手術を担当したという朝倉看護師。「手術した患者の7割は銃創（銃で撃たれた傷）で、傷口の洗浄や死滅した組織を取り除く仕事が多

南スーダン共和国では現在、I  
CRC（赤十字国際委員会）が  
医療救援活動に取り組んでいま  
す。日本赤十字社は2016年  
3月～9月の約半年間、武蔵野  
赤十字病院に勤務する朝倉裕貴  
看護師をI CRCのオペレー  
ションに派遣しました。昨年10  
月24日、武蔵野  
赤十字病院で帰  
国報告会が行わ  
れました。



内紛争が続き医療支援の  
ニーズが高まっている  
南スーダン共和国では現在、I  
CRC（赤十字国際委員会）が  
医療救援活動に取り組んでいま  
す。日本赤十字社は2016年  
3月～9月の約半年間、武蔵野  
赤十字病院に勤務する朝倉裕貴  
看護師をI CRCのオペレー  
ションに派遣しました。昨年10  
月24日、武蔵野  
赤十字病院で帰  
国報告会が行わ  
れました。

内紛争が続き医療支援の  
ニーズが高まっている

看護師  
**朝倉 裕貴**  
*Yuki Asakura*

2009年から武蔵野  
赤十字病院勤務（救  
急外来）。2011年4  
月から2014年3月  
まで名古屋第二赤  
十字病院・国際医療  
救援部に勤務した  
経験も。

活動中です。朝倉看護師は「こ  
う場所で活動している日本人  
がいることを知ってほしい」と  
語っています。

I CRCは現  
在、シリアに次  
ぐ規模で南スー  
ダンにおける  
支援活動を展  
開しており、約  
800人のス  
タッフが同国で

7月に起きた大規模戦闘時に  
もジュバで支援活動にあたっ  
ていましたが、「スタッフはセー  
フティールームに避難し、けが人  
などは出なかった。安全管理はI  
CRCの規定に則り、きちんと  
コントロールさ  
れていた」とい  
います。



派遣先の南スーダンで子どもたちと



現地で手術した患者の7割が銃で撃たれた傷だった

## 武蔵野赤十字保育園

# ほって、あらって、むして みんなでたべた！

武蔵野赤十字保育園では昨年10月19日、3～5歳クラスの計106人で、吉祥寺にある畑に、いも掘りに行ってきました。自分たちで収穫する喜びを味わうことや、自分で掘ったさつまいもを調理してみんなで食べる喜びを体験することを目的としています。

## 大きいもをゲットするぞ！

園児たちは事前に、いもの成長や、収穫されたいもが料理やおやつになる様子について、保育士からお話を聞いています。そのため、畑に行く日はワクワクして大騒ぎ。

畑に到着したら、いよいよいも掘り開始。「大きいもをゲットするぞ、エイエイオー！」と掛け声をかけて、畑に突入です。手が泥んこになっても、次々と掘り出していきます。1人で抜けないときは、お友達と協力しあいながら頑張りました。ミミズやコオロギも見つけて大喜び！

園に帰り、いもを洗うとき綺麗な紫色が現れ、園児たちの大きな歓声が。午後のお昼寝の間に、園庭で薪を使って蒸しておきます。お昼寝から起きたら、カウントダウンの掛け声にあわせて、蒸し釜ふたをオープン。「いただきます」をして、おかわりもして、おなかいっぱい食べました。



重たい袋も  
がんばって運びます

泥んこのいもを  
洗うと、きれいな  
紫色が！



## 赤十字子供の家

# 専門機能チームが 丁寧な支援を行っています



一人ひとりの  
子どもにしっかりと  
向き合います



専門機能チームに  
よるケースカンファ  
レンスのようす

「赤十字子供の家」は、専門機能強化型児童養護施設に指定されています。これは、治療的・専門的ケアが必要な子どもに対して手厚い支援を行うための体制が整備されている施設のことです。この指定を受け当園では、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、小児科医、臨床心理士（CP）で構成された専門機能チームを発足させました。

## 専門職と職員が連携しながら

入所した子どもには、必ずOT、ST、CP、医師が会いに行き、その子の状態について把握できるよう努めています。情報は居室担当職員とも共有し、よりよいケアや支援につなげています。

発達支援が重点的に必要な子どもに対しては、ケースカンファレンス（会議）を実施し、支援のあり方について検討。居室担当職員と話しあいながら、支援計画を立てます。

乳幼児期は、子どもが豊かに生きていけるようになるために、とても大切な時期です。専門機能チームは、子どもたち一人ひとりがより豊かに生きていけるための基盤を丁寧に作りあげられるよう、今後もお子さんのケアに努めています。



今日は、普段よく見かけるけど実は知らない「献血バス」にトリック!!  
出発前の準備や実施までを密着取材して参りました♡ 私とバスでの「献血」は未来馬鹿... 私の大好きな「献血ルーム」とどんな違いがあるのか... 調査して参ります!!



# 行け! O.Lポタオカ★日赤とけきレポ

## -Vol.6 献血バス編-

「献血バス」運転中!!

「今日は、お天気に恵まれています」

「台車から荷物運搬!!」

「多量に運搬中」

「お天気に恵まれています」

「東京赤十字血液センター (新宿区 石松町)」

「スッ!?」

「献血バスの出発地って、こんなオシャレな所なの?」

「献血バスって、御で結構見まけっ!」

「あまりよく知らないのよね!」

「スギバ」

「こんなに入ってるの?」

「到着後、荷におおき」

「献血バス」

「お天気に恵まれています」

「1日にもっと献血した」

「献血バス」

「スリッパ」

「馬車場に、献血バスが勢ぞろい!!!」

「圧巻!!!」

「献血バス」

「どちゃ!」

「お天気に恵まれています」

「献血バス」

「献血バス」

「お天気に恵まれています」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

「お天気に恵まれています」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

「献血バス」

END



日本赤十字社東京都支部の協賛企業によりご提供いただいています。  
ご応募、お待ちしております！

## A.



485ml 24本入り  
**5名様**

### 三ツ矢サイダーW(ダブル)

●アサヒ飲料株式会社

食物繊維(難消化性デキストリン)のはたらきにより、「食後の血中中性脂肪の上昇と血糖値の上昇をおだやかにする」ダブルの機能を持ったWトクホの三ツ矢サイダーです。爽快クリアな味わいでココロも体もスッキリできます。

## B.



470ml 24本入り  
**5名様**

### 小岩井 純水ぶどう

●東京キリンビバレッジサービス株式会社

指定農園果実をきれいな純水で仕立てた、着色料・保存料不使用の果汁飲料。渋みを抑えたぶどうのまろやかな甘みが楽しめます。果汁20%。

## C.



**10名様**

### TAEKOサンスクリーン

●株式会社アードブレン

SPF50+、PA++++。お肌と環境にやさしい日焼け止め美容液。アルカリゲネス産生多糖体のチカラで、お肌の潤いを護り下地にも最適です。ウォーターブルーフなのに石けんで落とせます。紫外線吸収剤・揮発性油剤・界面活性剤など一切無添加。

### プレゼント応募方法

①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④年齢 ⑤連絡先 ⑥本誌入手場所 ⑦本誌の感想(100文字程度) ⑧希望するプレゼント番号を明記し、はがきまたはメールで下記までご応募ください。抽選でプレゼントが当たります！締切は2017年2月28日。当選者は次号誌面で発表します。

■件名には「プレゼント応募」とご記入ください。

はがき ▶ 〒169-8540

東京都新宿区大久保1-2-15 NT編集部あて  
メール ▶ [nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp](mailto:nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp)

※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。  
※お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部が行う広報に活用させていただく場合があります。

協賛品募集中! お問い合わせは ▶ [nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp](mailto:nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp)

### 前号のプレゼント当選者

#### A キリン 生茶

石井 比呂美 (町田市)  
土屋 香理 (品川区)  
野村 豊 (国立市)  
酒井 あさか (神奈川県横浜市)  
小松 洋平 (港区)

●2016年12月3日  
NTファンミーティングでの当選者  
西宮 正訓 (杉並区)

#### B 日赤LEDライト

片桐 純子 (文京区)  
伏木 鈴枝 (品川区)  
吉見 奈緒子 (練馬区)  
堀 達男 (町田市)  
羽田 裕子 (埼玉県東松山市)  
岡村 敦子 (神奈川県川崎市)  
菊地 康二 (世田谷区)  
山下 敏史 (新宿区)  
山田 麻紀 (葛飾区)  
木村 広明 (東久留米市)

※敬称略・順不同

## 読者の声 (vol.11)



「N」 HK海外たすけあいキャンペーン」など、私も耳にしたことがある活動を多く行っていることを、本誌で初めて知りました。人道支援活動に対する自らの関心の低さを実感させられました。誌面では特に「Rediscovery TOKYO」の写真が素朴で美しく、印象的でした。

武蔵野市・24歳・女性(献血ルーム吉祥寺タキオン)

バックナンバーはこちら  
<http://www.tokyo.jrc.or.jp/kohoshi/>

「想」 像力を広げるために種をまき一伝えるということ。」の写真に惹かれました。シリア・イラクのニュースでは、街が破壊され、難民になった市民の厳しい生活が報道され胸が痛みますが、内戦前の首都ダマスカスの素晴らしい写真や、笑顔の子どもたちの写真を見て、私にできる事は献血と募金だけです。引き続き継続していきたくと思いました。

東久留米市・51歳・男性(献血ルーム池袋ぶらっと)

※( )はNTの入手場所



# 赤十字は、 ジミチです。

「赤十字の活動は広すぎてわかりづらい。」  
と言われることがあります。

赤十字の活動は、国や状況、理由、活動の種類を  
限定しません。対象は全世界の苦しむ人々です。

確かに、エリアや対象となる人々を限定して緊急性  
を訴えるほうが社会の目に届きやすく、理解され  
やすいかもしれません。

しかし、赤十字は世界最大の人道機関。

その組織力があるからこそできることがあります。

緊急時の支援は当然のこと、すべての脅威から  
人々を守るために全世界で活動しています。

もちろん、国内でも医療や献血、そして大災害に  
対する取り組みなど、皆さまの身近なところで  
活動しています。

命を守るために必要であれば、スポットライトが  
当たることのないジミな活動も大切にする。

これが赤十字のジミチです。

## プロが教える赤十字終活セミナー

日時：2017年2月6日（月）13：30～15：30

場所：日本赤十字社東京都支部

「終活」はじめてますか？

知って得する終活のいろは。

書いてみよう！

エンディングノート。

※3月中旬に別のテーマで終活セミナーを実施予定です。

- 詳しくは東京都支部HPをご覧ください。下記までお問い合わせください。

日本赤十字社東京都支部 振興課

Tel 03-5273-6743

shinko@tokyo.jrc.or.jp

## 赤十字子供の家が 平成29年度に移転改修します

昭和25年に世田谷区桜丘に開設し、昭和57年に現在地に移転した赤十字子供の家。施設の老朽化と、隣接する武蔵野赤十字病院の全面的な改築計画に伴い、平成29年度に移転改修します。

安心安全に生活できる環境を確保し、子どもたちの自立に向けてより良い支援ができることをめざしています。

詳しくは、次号NTに掲載します。





## 活動資金協力者(社)・団体のご紹介

皆様のご協力により日本赤十字社の活動は支えられています。  
活動資金のご協力、誠にありがとうございました。

※10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了承いただいた個人、法人および団体等を掲載しています。

活動資金協力に関するお問合せは  
東京都支部 振興課 03-5273-6743まで

●千代田区		野村 安久	100万円	鳴島 幸枝	10万円
菅佐原 良司	10万円	●渋谷区		立川市赤十字奉仕団(奉仕団まつり)	
山路 美彌子	10万円	田中 國清	50万円		23万6,464円
(株)朝日写真ニュース社	30万円	第33回全日本ウエイト制空手道		立川市赤十字奉仕団(たちかわ楽市)	
日軽エムシーアルミ(株)	10万円	選手権大会	10万円		20万4,293円
●中央区		2016国際親善空手道選手権大会		立川市赤十字奉仕団9班	10万円
(株)タウン管理サービス	10万円		10万円	●武蔵野市	
●港区		日本ビー・エックス・アイ(株)	10万円	丸山 浩	800万円
(株)インサイド・アウト	100万円	●中野区		●三鷹市	
イーパートナーズ(株)	30万円	佐藤 みゑ子	10万円	ソリッド(株)	60万円
(一社)日本血液製剤機構	10万円	●杉並区		●昭島市	
(株)日ノ樹	10万円	大崎 千鶴代	40万円	三浦 寛子	10万円
●新宿区		昭和建物(株)	100万円	●調布市	
内堀 尚夫	15万円	●豊島区		昇華学園麦の会	10万円
出井 弘八	10万円	アムス・インターナショナル(株)	109万6,970円	●小金井市	
(株)廣和技研	100万円	●北区		野口 利明	50万円
(株)アイザワ	10万円	第一化学工業(株)	20万円	大野税務会計事務所	10万円
スタイルグループ	10万円	●練馬区		●国立市	
●文京区		影山 洋子	500万円	保科 寛之	10万円
(株)プロシップ	200万円	内田 正弘	10万円	●西東京市	
●墨田区		●足立区		三和建装(株)	10万円
木塚 靖夫	10万円	増山 元美	50万円	●武蔵村山市	
木塚 秀江	10万円	梶 富美子	30万円	(株)桃源堂	10万円
●江東区		佐々木 継男	10万円	(有)ワタヤ	10万円
北島 松太郎	10万円	増山 一雄	10万円	●多摩市	
スズキテクノス(株)	20万円	(株)ナカネ	20万円	田口 久志	100万円
(株)東合板商会	10万円	三和産業(株)	15万円	●西多摩郡	
●品川区		東京メディカルスクール	10万円	久馬 美智恵	20万円
海沼 実	300万円	●葛飾区		●埼玉県	
金森 利幸	20万円	小倉 茂	15万円	藤井 静江	10万円
藤田 公子	10万円	●江戸川区		●神奈川県	
全日本音楽教室指導者連合会	10万円	(有)小川オートサービス	10万円	河崎 房江	10万円
ベクター・ジャパン(株)	10万円	●八王子市		松岡 喜美	10万円
●目黒区		木下 徳明	10万円	(株)テクネ計測	45万円
(株)システムサイト	10万円	齋藤 元泰	10万円	●兵庫県	
●大田区		(有)ビー・アイ	10万円	田尻 邦夫	10万円
秋葉 柳一郎	10万円	●立川市			
●世田谷区		中村 智英子	20万円		
谷村 将光	100万円				

(敬称略・順不同)



# Rediscovery TOKYO

東京を、再発見しよう



## + 東京観光写真倶楽部 TOKYO SIGHTSEEING PHOTO CLUB

写真とはまさに「光を観ること」。東京を＜観光＞しながら撮影を楽しむことを目的とし、2005 年に発足した同倶楽部は、東京諸島を含む都内各地で撮影会を開催している。部長を務めるのは、日本赤十字社専属カメラマンである菅原一剛氏。東京の写真を撮り続けている同倶楽部とコラボレーションした連載が、Rediscovery TOKYO です。

菅原一剛 HP <http://ichigosugawara.com> 東京観光写真倶楽部 <http://tokyophoto.ne.jp>



## 第5回 台東区・浅草

東京の下町代表と言えば浅草。お正月という“日本らしい”行事を楽しむのに、この街はぴったりだ。かと言って、浅草は古めかしさを頑なに守り続ける街ではない。その風景にしても、初めて訪れた時、隅田川の向こうにスカイツリーは見えなかったし、一方で、路地に迷い込んだ際に目印にしていた花やしきの「Beeタワー」は去年10月に取り壊されて無くなった。街は生きて、変化し続けている。それでも＜浅草＞であり続ける街。そのたくましさやしなやかさに、日本だけでなく世界中の観光客が押し寄せる。浅草のお正月は、観光客の笑顔をあたたかく包み込む光に満ちている。この光に会いたくて、きっとまたお正月に浅草を訪れてしまうことだろう。







#### Profile ● Takaaki Momoi

日本大学経済学部2年生。平成28年3月より東京都学生献血推進連盟会長。7月に明治神宮会館で開かれた第52回献血運動推進全国大会では参加者代表として誓いのことを述べた。

## 赤十字を知って「この道がある！」と思った。

**昔**からボランティアに関心はあったものの、何から始めればいいのか、わからずにいたんです。大学に入るまでは実際にボランティアに関わったことはなく、献血をやろうと思ったこともありませんでした。

大学生になって初めて学生赤十字奉仕団のことを知った時、「これだ、この道がある！」と思いました。とは言っても、赤十字は、災害時や紛争地域で活動しているイメージが強く、献血など私たちに身近なことにも取り組んでいることは

知りませんでした。でも、学生赤十字奉仕団に参加すれば大学生活を有意義なものにできると感じました。

その後、東京スカイツリータウン・ソラマチの献血ルーム feel でボランティアを始め、1年生の10月に、初めての献血をしました。針を刺す時はちょっと痛かったけれど、達成感がありました。

僕がさまざまな活動を通して気づいたのは、誰かを支えることがボランティアなのに、家族や同期、先輩などの多くの人に支えられているということ。支えら

れている自分がいるから他の人を支えられると思うようになりました。それが、自分が得た宝物だと思っています。

同世代の若い人たちに献血の意義について理解してもらうことも、もちろん大切ですが、それよりも、生活の一部として気軽に献血してもらえるといいのかなと思っています。理屈であれこれ説明するより、「献血って大切なんだね！」と共感してもらいたい。多くの人にそう思ってもらえるように、今後はそんな宣伝動画をつくりたいと考えているところです。

※桃井さんたち学生の活動については P.16 に掲載



日本赤十字社 東京都支部  
Japanese Red Cross Society

〒169-8540 東京都新宿区大久保1丁目2番15号  
TEL 03-5273-6741 (代表) FAX 03-5273-6749 <http://www.tokyo.jrc.or.jp>



Facebookでも  
NTが読めます！